

## カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

### ニュースレター（第7回）

#### 初等・中等カリキュラムの意見交換会の開催、積極的な意見交換が行われる！

12月4日（木）BERDCの2階会議室にて算数と理科の2教科について、CDTメンバーとDEPT中等カリキュラム職員及びADB専門家の出席のもと、カリキュラムについての意見交換会が開かれました。この会議は中等教育の教科書開発支援を予定しているADBの要請によるもので、目的としては、初等と中等の教育内容の連関性をもたせるために、すでに開発が進んでいるCREATEの進捗とその詳細をDEPT中等カリキュラムの関係者と共有することでした。午前（10:00-12:00）に理科、午後（13:00-15:00）に算数と、ほぼ終日の意見交換会でした。

算数、理科ともにCDT代表者が教科書を開発する上での基本的な考え方（教育哲学、国際標準、重視すべき能力・資質など）を説明した上で、具体的な教科書デザインの紹介を行い、Dr. Myint TheinやADBコンサルタントのDr. Marion Youngより賞賛のコメントを頂きました。なお、DEPT中等カリキュラム職員からは、教科書デザイン案の中で使われているミャンマー語の字句やその使い方など細かい指摘があり、今後、教科書内容を最終化する際には、それらの点に気をつける必要のあることも分かりました。この意見交換会は正規なものとしては初めてで、まずは算数と理科の2教科を対象に行いましたが、今後、機会をみて他教科でも開催したいと考えています。



#### 第1回教科書デザイン発表会の開催

去る10月の定例進捗報告会において、算数CDTから「自分たちの教科書デザイン案を他教科CDTにも見てもらい、異なった視点からの様々なコメントをもらう機会がほしい」という要求がありました。CREATEでは、この要求を受けて、2014年12月12日（金）10:00-12:00にBERDCの2階会議室にて、第1回「教科書デザイン発表会」を開催しました。2時間という限られた時間でしたので、事前に発表希望チームを募集し、その結果、算数CDTと音楽CDTの2チームに決定しました。算数CDTについては、これまでに開発した教科書デザイン案が示され、イラストやアイコンの使い方、ページレイアウト、例題→解説→練習問題といった基本的な学習の流れ、などが明確に示され、参加していた他教科CDTにも大変参考になったようです。

#### ヤンキン教育大学付属小学校での試行開始！

昨今、各教科CDTでは教科書デザインの基本的な方針と内容が固まると同時に、かなりの数の単元において具体的なドラフト版が出来てきたことから、「一度、実際の学校で試行をしたい」という声が上がっていました。そこで、CREATEとしては、12月よりヤンキン教員大学付属学校（YECPS）において新教科書の試行を開始することに決定しました。これまでに行った試行は、道徳の1教科のみですが、今後は希望教科があれば順次試行教科を広げていきたいと考えています。また、現時点では新教科書の試行が可能な学校は、YECPSの1校だけですが、教育省へは以前よりヤンゴン市内の小学校10校程度を指定してほしい旨の要請を行っているため、年明けには他の小学校でも試行が可能になると思われます。

なお、初めて新教科書ドラフト案を施行した道徳の担当でもある加藤総括によれば、「どうしても教師が教え込んでしまって、最後には暗記学習になってしまう」という厳しい現状が伝えられ、教科書記載内容や方法はもちろんのこと、それを教える教師の教授学習に対する考え方についても乗り越えなければならない大きな壁があることを改めて思い知らされたという印象です。

### カリキュラム・フレームワークの承認は来年3月まで持越し！

2014年12月19日(金)に急遽、教育大臣にアポイントメントがとれ、JICA池田所員、山川専門家、加藤総括、田中専門家の4名がヤンゴンからネピドーに日帰りで出向きました。15:00からの会談は、教育省の大会議室にて行われ、教育大臣の他、副大臣、Dr. Myo Thein Gyi、Daw Tin Tin Shu など6名が出席され、当方からは牟田専門家を含め5名でした。

会談では、以前からの懸案であったカリキュラム・フレームワークの話が中心でした。プロジェクト側からは、カリキュラム・フレームワークの重要性を再度説明し、カリキュラム・フレームワークがないと本格的な教科書開発作業にとりかかれない旨を伝えました。それに対し教育大臣からは「2015年1月に最後の協議を設け、その後承認(3月頃)という手続きになる」旨の回答がありました。前回、10月23日の面談の際に約束された「11月末にSWCを開いて、12月初旬には今後の方向性について開発パートナーに連絡する」ということには全く触れられず、カリキュラム・フレームワークの承認が再び遅れることだけが確実となりました。



左から3人目が教育大臣

文責: 田中義隆 (カリキュラム・チームリーダー)  
編集: 宮原光 (プロジェクト・コーディネーター)